

臨 牀

癩ノ「マラリア」療法成績

岡山醫科大學皮膚科泌尿器科教室（主任皆見教授）

藤 原 皓

緒 言

微毒ノ「マラリア」療法ニ就テハ既ニ數多ノ報告アリ。又近來ハ淋疾ニ對スル「マラリア」ノ治験モ報告サルニ至リ余モ其治験例ニ就キテ報告セリ。

「マラリア」ガ微毒ニ對シ或ハ淋疾ニ對シ多少トモ效果ヲ認メラルルハ果シテ何ニ因ルカ。即チ「マラリア」ニヨル高度ノ發熱ニ困ルヤ或ハ非特異的作用ニ基クヤ不明ナリト雖モ、微毒ニ對シテ相當ノ效果ヲ收メ、淋疾ニ對シテ好影響ヲ與フル以上他ノ傳染性疾患ニ對シテハ如何。

皆見教授ハ之ヲ最モ忌ムベキ癩症ニ對シテ試ミントシ、機會アル毎ニ實驗觀察サレ、ソノ成績ノ大略ハ既ニ第28回皮膚科學會總會ニ於テ發表サレシガ、更ニ全症例ニ就キテノ詳報ヲ余ニ命ゼラレタリ。唯此處ニ余等ノ遺憾トスル所ハ初期ノ期待ニ反シ、ソノ治療成績ノ甚ダ振ハザリシコトナリ。然リト雖モ今日コノ種ノ報告ヲ未ダ耳ニセザルヲ以テコノ報告モ無爲ニハ非ザルベキヲ信ズ。

症 例

本症ハ特殊ノ疾患ナルヲ以テ入院觀察ヲナス能ハズ。已ムナク「マラリア」接種後ハ自宅ニ於テ靜養ヲ命ジ、萬一ヲ慮リテ「ヒニン」ヲ與ヘテ熱型ヲ記録セシメタリ。

第1例 村川、17歳男（初診2. 9. 19）斑紋癩

病歴 約2年前ヨリ頤部ニ紅斑ヲ生ジ知覺麻痺ヲ伴フ。

現症 頤部ノ右側ニ偏シテ境界明カナル手掌大ノ紅斑アリテ痛覺減弱ス。兩側尺骨神經ヲ明カニ觸レ、大耳神經右側強度ニ肥大ス。

治療及ビ經過 「マラリア」發作10回（コノ間10日）。

「マラリア」終了後數日目ヨリ右頰部腫脹シ、顎關節部ニ咀嚼時疼痛アリテ、右耳多少難聴ヲ起セリ。頤部紅斑ニ變化ナシ。尙ホ1週間後紅斑ニ變化ナキモ他ノ症狀ハ全部消退セリ。「マラリア」後3箇月ニシテ變化尙ホ起ラズ。他ノ療法ニ移ル。後4箇月ヲ經ルモ著變ヲ見ズ。

第2例 今井、19歳男（初診2. 5. 13）結節癩

病歴 尋常6年時分ヨリ示指ニ知覺麻痺起リシガ、昨冬ヨリ頤部及ビ膝蓋部ニ匾豆大ノ結節ヲ生ジ次第ニ擴リテ前額、兩上膊ニモ生ジ最近ニ至リ下腿内側ニモ發生セリ。

現症 殆ど顔面全體ニ殊ニ前額及ビ頰部ニ米粒大ニシテ稍々黄色ヲ帶ベル褐色ノ結節播種狀ニ存シ、尙ホ兩側前膊ノ伸側、下腿ノ伸側ニ粟粒大ヨリ麻實大暗褐色ノ結節アリ。背部ニハ小指頭大ノ白斑多數ニ存ス。尺骨神經兩側共ニ觸ル。結節ヨリ癩菌ヲ證明ス。

治療及ビ經過 「マラリア」接種前1箇月間ニ「チムルジオン」0.2—0.4cc宛14回注射ヲ行フ。後「マラリア」發作13回(コノ間25日)ナリ。

「マラリア」終了後2箇月ニシテ背部ノ白斑稍々消退シ前額ノ結節稍々輕快ノ兆アリ。全身狀態良好ナリ。同3箇月半後、下肢及ビ手掌ノ知覺異常多少輕快シ前額ノ結節多少扁平トナル。同5箇月後結節尙ホ存ス。上下肢ノ知覺麻痺治療前ヨリ良好ナリ。結節上ニ痛覺麻痺稍々消失ス。手掌ノ麻痺ハ輕度ニ存ス。尺骨神經兩側共觸レ、大耳神經亦同様ニ觸ル。背部ノ白斑極メテ淡クナレルモ尙ホ存ス。斑上ノ痛覺麻痺ナシ。8箇月後ニ於テ症狀ハ輕快ノ兆ナク、結節ニ癩菌ヲ數多證明セリ。

第3例 日高、20歳男(初診2.10.28)斑紋癩

病歴 約4年來前額、頰部等ニ知覺麻痺ヲ伴ヘル紅斑ヲ生ズ。

現症 前額、兩頰、頰部ニ紅斑アリ。痛覺麻痺シ左乳房、背部、兩前膊ニモ同様ノ紅斑アリ。尺骨神經兩側共ニ肥大シ大耳神經亦同様ナリ。

治療及ビ經過 「マラリア」發作6回(17日間)。

「マラリア」後1箇月ニシテ紅斑多少褪色シ麻痺輕快ス。同3箇月ニシテ紅斑尙ホ存ス。斑上ノ麻痺アリ。尺骨神經兩側ヲ觸レ大耳神經兩側共肥大ス。

第4例 渡邊、37歳男(初診2.4.4)神經癩

病歴 約10年來頭部及ビ足趾ノ知覺麻痺ヲ訴フ。

現症 尺骨神經兩側肥大シ、肩胛部、背部ニ大小種々ナル白斑ヲ有シ知覺ナシ。下腿所々ニ同様ノ白斑アリ。兩手背、手掌、足趾ニ痛感減弱ス。

治療及ビ經過 「マラリア」接種前「チムルジオン」又ハ大楓子油35回注射、「マラリア」發作12回(22日間)行フ。

「マラリア」終了後2箇月ニテ手掌ノ麻痺感著シク輕快セルモ白斑尙ホ存ス。同5箇月後上記ノ所見次第ニ再ビ増悪シ四肢ノ麻痺舊ニ復セリト。尺骨神經兩側肥大シ、大耳神經兩側共ニ觸ル。白斑尙ホ著明ニ存スルモ背部ノ或ルモノハソノ中央ニ色素再生アリテソノ部ハ知覺存ス。同8箇月後輕快ノ兆ナシ。

第5例 高見、38歳男(初診2.1.27)混合癩

病歴 昨年3月左手腕關節附近ニ腫脹アリテ治セズ。知覺麻痺アリ。尙ホ暗紅色ノ發疹ヲ生ゼシガ本年4月兩下腿及ビ軀幹ニモ同様ノ發疹アリト。

現症 殆ど全身ニ大小種々ナル多數ノ發疹アリ。同部ニ疼覺麻痺アリ。尺骨神經兩側共ニ觸ル。

治療及ビ經過 「マラリア」發作15回(15日)。

「マラリア」發作後1箇月ニテ變化ナシ。同3箇月後患者ノ言ニヨレバ一時輕快セルモ約1箇月前ヨリ再ビ増悪セリト。紅斑一時消褪セリト云フモ現在著明ニ認めラル。顔面ニハ新生ノ紅斑ヲ認め。尺骨神經、大耳神經共ニ觸ル。同6箇月ニシテ輕快ヲ見ズ。

第6例 荒木, 18歳男(初診2. 10. 10) 神經癩

病歴 約1.5年前ヨリ左手ノ運動障碍及ビ知覺麻痺ヲ訴フ。

現症 尺骨神經兩側共肥大ス。左側手掌ノ筋萎縮シ同側第4, 5兩指共ニ鈎狀指ヲナス。

治療及ビ經過 「マラリア」發作5回(12日間)。

「マラリア」後1箇月手掌ノ所見及ビ指ノ運動障碍ハ輕快セザルモ、知覺麻痺ハ多少輕快セリト。但シ紅斑上ノ知覺麻痺ハ尙ホ存ス。尺骨神經左側強度ニ肥大シ右側亦肥大ヲ認ム。同2箇月後左小指ニ於ケル麻痺ハ輕快セリト云フモ、同側腕關節部ニ帶狀ノ新紅斑ヲ生ゼリ(2週前ヨリ)。尺骨神經兩側共ニ肥大スルモ左側ハ特ニ著明ナリ。同5箇月後變化ナシ。

第7例 高木, 18歳男(初診2. 10. 4) 斑紋癩

病歴 4箇月前ヨリ兩足及ビ右腕ニ麻痺感ヲ起ス。

現症 背部所々ニ痛感減弱セル紅斑アリ。兩腕殊ニ前膊ニ知覺減退アリ。口唇ヨリ右頬ニ互リ紅斑アリ。尺骨神經, 大耳神經共ニ觸ル。

治療及ビ經過 「マラリア」發作5回(10日間)。

「マラリア」後2週ニシテ症狀全體ニ互リ輕快セル感アリシガ、同2箇月半後大ナル變化ナク、手掌及ビ紅斑上ノ知覺麻痺尙ホ存シ、尺骨神經, 大耳神經共ニ肥大ヲ認ム。同6箇月後所見同ジ。

第8例 守屋, 22歳男(初診2. 5. 27) 神經癩

病歴 5—6年來兩下肢ニ知覺麻痺アリ。1箇月前ヨリ多數ノ斑紋ヲ背部ニ生ジ手掌ニ腫脹、顔面ニ浮腫起ル。

現症 背部ニ2錢銅貨大ヨリ手掌大ノ多數ノ白斑アリテ總テ痛感減弱ス。尺骨神經兩側共著明ニ觸レ、大耳神經亦同様ニ觸ル。

治療及ビ經過 「テムルジオン」10回注射後「マラリア」接種。發作10回(15日間)。

「マラリア」後10日ニシテ變化ナク同2箇月後白斑多少淡クナリ、知覺異常尙ホ存スルモ握力以前ニ比シ輕快ス。同5箇月後自覺症狀著シク輕快シ顔面浮腫消退セルモ知覺麻痺尙ホ存ス。但シ手掌ニ於ケル麻痺ハ幾分輕快ノ狀アリ。然ルニ6箇月目ニ至リテ稍々増惡セリト稱ス。胸部ノ白斑著シク淡キモ麻痺存シ、背部ニ於ケル知覺麻痺稍々輕快セルモ痛覺減弱ス。尺骨神經, 大耳神經共ニ觸ルルモ尺骨神經ノ肥大強シ。同8箇月後所見變化ナシ。

第9例 谷本, 11歳女(初診2. 12. 21) 斑紋癩

病歴 本年7月ヨリ前頸部ニ大小種々ノ紅斑ヲ生ジ、右下肢ニモ生ジ知覺麻痺アリ。

現症 顔部, 前頸, 兩下腿ニ痛感減弱セル紅斑アリ。尺骨神經左側輕度ニ觸ル。

治療及ビ經過 「マラリア」10回(13日間)。

「マラリア」後1週ニシテ前頸部ノ紅斑周縁部ニ於ケル丘疹消退シ知覺恢復セル如シ。下肢ノ知覺亦多少輕快セリト。但シ他覺的ニハ痛覺麻痺ス。同1箇月後ニ至リ前記頸部ノ紅斑再ビ現レ痛覺麻痺起ル。下肢ニ於テ輕快ヲ認メズ。尺骨神經兩側共觸ル。同1箇月半後變化ナシ。同5箇月後著變ヲ見ズ。

第10例 須賀田, 29歳男(初診2. 12. 26)斑紋癩

病歴 8箇月前ヨリ手足ノ知覺麻痺ヲ訴フ。

現症 兩肩胛部, 鎖骨部, 兩前膊伸側, 背部, 臀部等ニ紅斑及ビ白斑ヲ有ス。尺骨神經兩側共ニ明カニ觸ル。兩側猿手, 鈎狀手ヲ有ス。

治療及ビ經過 「マラリア」發作8回(16日)。

「マラリア」後2箇月ニシテ手掌ニ於ケル知覺麻痺ハ輕快セル如キモ猿手, 鈎狀手ハ尙ホ可ナリ強度ニ存ス。尺骨神經ハ觸ルルモ肥大少シ。大耳神經左側ハ稍々肥大セルモ右側ハ觸レ難シ。

第11例 大畑, 29歳男(初診2. 12. 7)混合癩

病歴 1年前ヨリ兩下肢ニ知覺麻痺ヲ起シ, 20日前ヨリ顔面ニ發疹アリ。

現症 背面ニ多數ノ白斑アリテ知覺麻痺ヲ伴フ。顔面ニ紅斑多數ニ存シ, 麻痺ハ輕度ナリ。兩側尺骨神經可ナリ強度ニ肥大シ, 大耳神經亦明カニ觸ル。

治療及ビ經過 「マラリア」發作10回(20日)。

「マラリア」發作後11日, 顔面ノ紅斑ハ未ダ變化ナシ。尺骨神經, 大耳神經共ニ變化ナシ。

第12例 山田, 28歳男(初診2. 7. 25)斑紋癩

病歴 1月前ヨリ四肢ニ紅斑ヲ生ジ知覺麻痺ス。

現症 上前膊伸側ニ大ナル斑紋ヲ有シ邊緣多少隆起シ發赤ス。該部ノ知覺麻痺存ス。尺骨神經兩側共肥大スルモ右側特ニ著シ。

治療及ビ經過 「マラリア」第1回ノ發作ニテ患者ノ誤解ニ依リ「ヒニン」ヲ服用セル爲1週間不規則ナル熱型ヲ示シ下熱ス。

半年後ノ所見ニ變化ナク斑紋消退セズ。尺骨神經右側著明ニ肥大シ左側亦肥大ス。

第13例 洲脇, 43歳女(初診2. 2. 14)癩恐怖症

病歴 1年前ヨリ兩眉毛部ニ脫毛アリ。全身ノ倦怠, 或ハ關節痛ヲ訴ヘ, 眉毛部ニ知覺異常ヲ訴フ。癩恐怖症ニ罹ル。

現症 著變ナク, 血清ノWR, 村田氏反應共ニ陰性。脊髓液亦陰性ナリ。

治療及ビ經過 「マラリア」發作8回(12日間)。

「マラリア」終了後4箇月ニシテ全身ノ倦怠感及ビ關節痛ハ輕快セルモ眉毛部ニ於ケル知覺異常尙ホ存スト。

第14例 川島, 50歳男(初診2. 6. 27)癩恐怖症

病歴 正月頃ニ口内炎ニ罹リ治セズシテ口唇, 眉毛部等ニ浮腫ヲ生ジ, 下腿, 前膊, 右耳下腺部等ニ白斑ヲ生ゼリト。

現症 顔面ニ多數ノ瘡癩アリ。兩側尺骨神經ヲ觸ル。顔面ニ蟻走感アリト云フモ他覺的ニ著變ナシ。

治療及ビ經過 「マラリア」發作6回(11日)。

「マラリア」後尙ホ顔面ノ知覺異常ヲ訴フ。ソノ後再來セザルヲ以テ經過ヲ知ル能ハズ

總 括

斑紋癩 6 例, 神經癩 3 例, 混合癩 2 例, 結節癩 1 例, 癩恐怖症 2 例, 合計 14 例ニ對シ「マラリア」ヲ接種シ, ソノ治療經過ヲ觀察セリ. 總テ「マラリア」血液接種ハ皮下ニ行ヒ發作ハ 5—13 回ニシテ, 「マラリア」接種後大體 2—8 箇月ノ經過ヲ觀察セル者ナリ.

之ヲ總括表示スレバ次ノ如シ.

癩ノ「マラリア」療法治療成績

症 例	姓 年齢 及ビ性	診 斷	前 治 療 及 ビ 「マラリア」發作回數	治 療 成 績	「マラリア」供給 者ノ血 清反應	血 清 反 應		「カタホレーゼ」	
						治療前	治療後	治療前	治療後
1	村川 17 男	斑紋癩	發作10回 (16日)	變化ナシ	不明	W. 村 — — (3箇月)	— — (3箇月)	1.1	1.3 (3箇月)
2	今井 19 男	結節癩	「チムルジオン」14回 發作13回 (25日)	多少輕快後 舊ニ復ス	W. 村 卅 卅	— — (6箇月)	— — (6箇月)	1.4	1.3 (6箇月)
3	日高 20 男	斑紋癩	發作 6 回 (17日)	多少輕快	W. 村 — —	W. 村 — — (3箇月)	— — (3箇月)	1.6	1.4 (3箇月)
4	渡邊 37 男	神經癩	大楓子油 35回 發作12回 (22日)	一時輕快セル モ後舊ニ復ス	W. 村 卅 卅	W. 村 — — (5箇月)	— — (5箇月)	1.6	1.7 (5箇月)
5	高見 38 男	混合癩	發作15回 (15日)	一時輕快セル モ後舊ニ復ス	W. 村 — —	— — (3-5箇月)	— — (3-5箇月)	1.6	1.6 (3.5箇月)
6	荒木 18 男	神經癩	發作 5 回 (12日)	著變ナシ	W. 村 — —	W. 村 — — (2箇月)	— — (2箇月)	1.6	1.8 (1箇月) 1.7 (2箇月)
7	高木 21 男	斑紋癩	發作 5 回 (10日)	一時輕快セル モ舊ニ復ス	W. 村 — —	W. 村 — — (3箇月)	— — (3箇月)	1.2	1.6 (3箇月)
8	守屋 22 男	神經癩	「チムルジオン」10回 發作10回 (15日)	同 上	W. 村 卅 卅	— — (6箇月)	— — (6箇月)	1.4	1.4 (6箇月)
9	谷本 11 女	斑紋癩	發作10回 (13日)	同 上	W. 村 — —	W. 村 — — (1週)	— — (1週)	1.4	1.5 (1週)
10	須賀田 29 男	斑紋癩	發作 8 回 (16日)	多少良好ナル モ著シカラズ	W. 村 — —	— —	— —	1.2	1.2 (2箇月)
11	大畑 29 男	混合癩	發作10回 (20日)	稍々輕快	W. 村 卅 卅	W. 村 — — (11日)	— — (11日)	— —	— —
12	山田 23 男	斑紋癩	發作 1 回ニテ「ヒニン」 内服ノ爲 1 週間 不規則ナル熱	變化ナシ	不明	— —	— —	1.4	1.5 (6箇月)
13	洲脇 43 女	癩恐怖症	發作 8 回 (12日)	關節痛輕快ス	W. 村 卅 卅	W. 村 — — (4箇月)	— — (4箇月)	2.4	2.3 (4箇月)
14	川島 50 男	癩恐怖症	發作 6 回 (11日)	變化ナシ	不明	— —	— —	— —	— —

註: W. ハ Wassermann 氏反應, 村ハ 村田氏法

血清反應及ビ「カタホレーゼ」ノ表中 () 内ハ「マラリア」終了後採血時迄ノ日數ヲ示ス

即チ 斑紋癩 6例	{ 變化ナキモノ 3例 一時輕快後舊ニ復セルモノ 2例 多少輕快セルモノ 1例	結節癩 1例	{ 多少輕快後舊ニ復ス 一時輕快セルモノ後舊 ニ復ス 1例 稍々輕快ス 1例
		神經癩 3例	
	{ 一時輕快後舊ニ復セルモノ 2例 著變ナキモノ 1例		

ニシテ多少輕快セルモノモ外觀的ニ幾分輕快セルモノニシテ一般的ニ豫期セル效果ヲ擧ゲザリキ。之ヲ血清ノ「カタホレーゼ」ニ徴スルモ治療前ニ比シ輕快セルモノモアリ却テ増悪セルモノアリ。或ハ臨牀的ニ多少輕快セルニ「カタホレーゼ」ハ反對ノ結果ヲ示セルモノアリテ一定セズ。(江原氏論文參照)

即チ「マラリア」發作 5—13回ノ程度ニ於テハ癩菌ヲ死滅セシムルコト不可能ナルモノノ如シ。而シテ是レ以上發作ノ回数ヲ増スコトハ危險ヲ伴フヲ以テ行ヒ難ク、更ニ再度ノ接種ヲ施スコトモ免疫ノ關係ヨリ發熱シ難キ者多シ。(2例ノ患者ニ2—7箇月ノ間隔ニテ再接種ヲ行ヘルモ發熱セザリキ)。癩恐怖症ニハ自覺的ニ多少輕快スル者アリ。勿論是ハ癩トハ關係ナキ者ナリ。

最後ニ一言附記スベキ事ハ表中ニ示セル如ク血清反應陽性ノ患者ヨリ同陰性ノ患者ニ血液ヲ接種スルモ何等血清反應的ニ危險ナキ事ナリ。微毒陽性ノ患者血液ヲ直接他ノ健康(微毒的ニ)血液中ニ移スハ一見危險ノ感アルモ、實際ニハ何等危險ナキモノナリ。是レ微毒患者ニ就テ皆見教授ノ夙ニ唱ヘラレタル事實ニ符合スルモノナリ。

結 論

- 1) 12例ノ癩患者ニ「マラリア」ヲ接種シタルモ其ノ結果ハ殆ド效果ヲ認メ得ズ。即チ癩菌ハ「マラリア」發作ニヨリ殆ド影響サレザルガ如シ。
- 2) 癩患者血清ノ「カタホレーゼ」ニモ大ナル影響ヲ及ボサズ。
- 3) 微毒血清反應陽性患者ノ血液(「マラリア」血液)ヲ健康血液ニ移入スルモ被注入者ノ血清反應ハ陽性ヲ示サズ。

稿ヲ終ルニ當リ恩師皆見教授ニ深謝ス。(3. 5. 15. 受稿)

文 獻

- 1) 江原, 本誌 10月號ニ發表ノ答.
- 2) 皆見, 江原, 皮膚科雜誌 27卷7號.

*Kurze Inhaltsangabe.***Die Malariatherapie bei Leprakranken.**

Von

Dr. Akira Fujiwara.

*Aus der Universitäts-Hautklinik in Okayama.**(Vorstand: Prof. Dr. Seigo Minami).*

Eingegangen am 15. Mai 1928.

Verf. hat den klinischen Verlauf der Malariatherapie bei 12 Leprakranken (6 Fälle von *Lepra maculosa*, 3 von *L. nervorum*, 1 von *L. tuberosa* u. 2 von *L. mixta*) 2–8 Monate lang nach der Impfung beobachtet. 5–13 Malariaanfalle wurden dabei durchgemacht.

Einige Fälle besserten sich nach Verlauf von 1–2 Monaten seit Einsetzen der Anfalle sowohl objektiv als auch subjektiv gewissermassen etwas, schliesslich verschlimmerten sie sich jedoch wieder. Bei einem Fall von Knotenlepra waren Leprabazillen 6 Monate nach der Malariatherapie sehr zahlreich im Knoten nachweisbar. Ueberhaupt ist von der Malariatherapie der Lepra nicht viel zu hoffen.

Nebenbei wurde hier bemerkt, dass die Seroreaktion der Leprakranken nicht beeinflusst wurde, auch wenn ihnen Malariablut, welches positive Wa R. zeigt, injiziert wurde.

(Autoreferat).